

一八八三年某月某日

根元造化力と神の化身の原理

また別の日、タクールは、カーリー寺院の庭園にある彼のお部屋の南東のベランダに続く階段に坐っておられる。ラカール、ハズラー、そして校長がそばにいて、小さい頃のことなど、楽しそうに話していらつしやる。

〔タクール、聖ラーマクリシユナの三昧境——宇宙の大実母との会話〕

タクールは三昧サマデーに入っておられる。夕方であった。タクールは小さい方のベッドの上に坐っておられる。そして、宇宙の大実母ジャガット・マータと話しておられる——「マー、なんで面倒なことはかり起こすんだい？ わたしや、そこに行かなくちゃならないんだね？ マーが連れていってくれるなら行くよ！」

タクールは、信者の家を訪問する話をしている。マーの許可をいただいているのだろうか？

タクールはまた、宇宙の大実母ジャガット・マータにおつしやる。このたびはたぶん、内輪の信者のことを祈っておられるのだ。——「マー、あれを浄化しておくれ。マー、あれにどうして一粒やった？」そして、しばらく黙っておられたが、また、「マー、わかったよ、一粒で十分だ。それだけであなたの仕事ができる」

タクールは、人を導く仕事が一粒の力で出来る、と言っておられるのだろうか？

タクールは恍惚としたご様子で、校長たちに根元造化力アディヤシャクテイと神の化身の原理について話して下さった。「ブラフマンである御方が、すなわちシャクテイ。私が大実母マと呼んでいるものが、シャクテイなんだよ。動かないでいるときブラフマンといい、創造、維持、破壊をなさるとき、それをシャクテイと呼ぶ。水は静かでも水だし、波打っていても水だ。シャクテイが神の化身となって活動クリヤしているんだよ。神の化身は神への愛と信仰を教えるために顕あらわれる。神の化身は牝牛の乳房だ。牝牛の乳房を押さえるとミルクが出てくる。あの御方は自ら人間の姿をとって化身なさる。あぜ道にあいた穴に魚が集まるように——」

何人かの信者たちは、クリシュナやチャイタニヤやキリストのように、ラーマクリシュナが神の化身として顕れたと思っただけに違いない。